

北近畿タンゴ鉄道生活交通改善事業計画に関する協議会 開催結果

1. 日 時

令和5年8月23日（水）14時00分から15時30分まで

2. 場 所

京都府立中丹勤労者福祉会館 4階 大会議室

3. 出席者

委員30名（うち代理3名）
オブザーバー1名
（別紙 出席者名簿参照）

4. 当日資料

別紙のとおり

5. 議 題

第1号 計画策定のスケジュールについて

第2号 京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画（仮称）中間案〈案〉について

①沿線地域を取り巻く社会情勢

②京都丹後鉄道と沿線の公共交通の現況

③北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画（H27～R6）の取組状況と評価

④京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画

6. 主な意見

〈第1号 計画策定のスケジュールについて〉

○ 意見無し。

〈第2号 京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画（仮称）中間案〈案〉について〉

○ 最寄り駅から通学できる高校について、1km 圏内以外でも通学できる高校はあるのではないか。

○ 通学について、高校生は自転車と丹鉄をあわせて利用している学生が多いのではないか。そういった点も踏まえて検討を進めていく必要がある。

○ 高速道路の利用者の推移がわかる資料があれば追加していただきたい。

○ 「表 駅勢圏人口と各駅利用者の状況」の駅利用率について、具体的な算出方法はどうなっているのか。定義を追記していただきたい。

- 観光施設について、駅周辺に新たに立地している施設もあるため、追加の記載を検討いただきたい。
- 目標数値の設定について、令和 10 年度に全体利用者数 182 万人という数値はかなりアグレッシブである。
内訳では通勤利用の増加、定期外の大幅な増加が見込まれている。定期外はインバウンドの影響があるため理解できるが、通勤は実現可能性に疑問がある。通勤・通学の利用者は基本的に右肩下がりであり、その点も踏まえて目標設定が必要だと考えている。
また、具体的な取組内容について、オンデマンド交通の記述を MaaS やアクセス交通の項目に盛りこんで頂きたい。
- 目標値については、算段がついているものもあると思う。通学は将来の子供の人数がある程度予測されるので、現在の送迎利用の状況から通学手段の転換等を想定し、ある程度の根拠が持てる。地域公共交通計画は、住民や行政等の関連主体が一体となって取り組む計画なので、住民の役割についても具体的に明記しておけば、何をすべきかわかりやすくなる。
- 沿線地域の観光入込客数の目標値については、算定方法が少しわかりづらい。また、取組内容については、計画期間のいつ頃を目途に進めていくのかを整理できれば、実効性を高めることにつながるのではないかと。
- 関係人口の増大について、海外・アジアの旅行客はリピーターが多いので、来なくても遠方からクラウドファンディングという形での支援もあり得ると思う。また、鉄道利用は環境面で他の交通手段より優れている点があり、そういった点も計画に反映することを検討して頂きたい。
- 目標値設定について、コロナ前の水準に戻すことは基本的には難しいという点は共通認識としてあるのではないかと。そういったトレンドを踏まえた目標設定が必要だと考えている。
- チャレンジングな目標設定を行う方針はよいが、どの程度チャレンジングにするのかという観点はあるだろう。目標値設定については、改めて精査して頂きたい。
通勤定期の目標設定が主な修正点になるのではないかと。
本文に地域公共交通計画の主旨を記載し、行政・住民等の関係者が一体となって責任を負うべきことを明示した方がよいだろう。